



Vol.1 原田精機株式会社

本社住所 浜松市北区東三方町245-1
 創業 1970年(2007年に分社化)
 資本金 1,000万円
 売上高 5億円(2010年12月期)
 社員数 22名(男20名・女2名)
 ☎053-436-7341
 [URL] <http://www.haradaseiki.co.jp/>

「地域企業」とは?

このコーナーでは規模の大小関係なく、地域に根付き挑戦の心を忘れない会社を「地域企業」と名付けて紹介。ものづくりのまち・浜松には魅力あふれる地域企業がいっぱいありますよ。

宇宙開発で国を変えていく

浜松から宇宙へ! 航空宇宙産業の先端を突っ走る地域の企業は、どんな未来像を描いているのでしょうか。ものづくりと宇宙のロマンにせまりました。

浜松ならではの探査機を

おにぎり型の4つのタイヤ、頭の上にはソーラーパネル。原田精機が開発した「ローバー」はそんな愛らしい見た目とは裏腹に、険しい岩場や砂地をものともせずグングンと走り抜ける惑星探査機です。

昨年秋、小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還。日本中が沸き上がり、宇宙開発へ熱い視線が向けられるようになりました。ローバーはその2年前、浜松で開催された「宇宙技術および科学の国際シンポジウム」へ出展するた



代表取締役の原田浩利さん

めに開発されたもの。「月面」ではなく「惑星」探査機、つまり地球でも使えるように作りました。探査のみならず、災害レスキューや産業用のロボットのベースとして活用できるよう、改良を積み重ねています」と代表取締役の原田浩利さんは語ります。

開発に当たり、原田さんの頭の中には「四輪で動くもの」というコンセプトがありました。「やはり浜松は車の町ですから。みんなが慣れ親しんだ形であれば気軽に案を出し合うことができるはずです」。惑星探査に限らずさまざまな活用法を想定しているのも、「車のようにいろいろな用途で使ってもらった方がたくさんのデータを取れるので」。車作りのノウハウが結集して生まれたのが「ローバー」というわけです。

「宇宙開発の目的は皆さんの生活を豊かに



原田精機が開発した惑星探査機「ローバー」

すること」と話す原田さん。同社が探査機と並んで力を入れるのが超小型人工衛星の研究です。気象や地図はもちろん、今後は農業や漁業、林業、交通インフラなどすべての産業が人工衛星からの情報を効率よく活用することで、安心・快適な生活を送れるようになると考えています。

「人工衛星を打ち上げるというのは海外に負けない国力の基盤を持つということ。これは会社も同じで、自分たちにはできない強みを持つことが大事。そして、企業同士が連携し融合を果たすことで地域も豊かになっていくんだと思います」



びぶれ流 頭の体操

国語編

ちょっと一息入れて、頭の体操をしてみませんか。このコーナーでは忘れてしまった小学校の勉強や雑学などを取り上げていきます。今回は「国語」。さあ、一緒に考えてみましょう。

(出題協力 学研教室)

問題

(1) □にあてはまる漢数字を書き、四字熟語を作りましょう。

月曜日
 白井 光比呂
 ユニ・チャーム
 ヒューマンケア社長
 (磐田市出身)

火曜日
 久保田 翠
 NPO法人
 クリエイティブ
 サポートレッツ
 理事長(浜松市在住)

静岡新聞の夕刊一面に掲載
 社会時評「怒辺」の執筆陣
 から代わりました。静岡大学
 伊東幸宏さんをはじめ、県警
 の安村隆司さん、ユニ・チャ
 ムヒューマンケア社長の白井光
 人(磐田市出身)、NPO法
 エイティブサポートレッツ理

静岡新聞夕刊